

Dil Ulenspiegel (1515) における 動詞前綴り uß について

大 島 浩 英

Über die Verbalvorsilbe „uß“ im Volksbuch
„Dil Ulenspiegel (1515)“

OSHIMA Hirohide

I. はじめに

16世紀初頭に初期新高ドイツ語で書かれた民衆本 „Ein kurtzweilig Lesen von Dil Ulenspiegel (1515)“ において、前綴りに uß をもつすべての複合動詞113例（延べ語数）をその現代語訳と比較し、前綴り uß の用法の変化について考察を行った。¹⁾ なお、引用文中の Si. は Sichtermann を、St. は Steiner をそれぞれ指しており、現代語訳は、原文の表現により近い方を対応させた。また、原文には書記法の不統一が見られるがすべてそのまま引用した。引用した例文については、考察対象の例文すべてではなく、各分類の代表的なもののみを挙げた。下線及び [...] は筆者。

使用テキスト：

Lindow, W.: Ein kurtzweilig Lesen von Dil Ulenspiegel. Nach dem Druck von 1515 mit 87 Holzschnitten. (Reclam 1687[4]) Stuttgart 1966.

現代語訳：(イタリックで表示)

Sichtermann, S. H.: Hermann Bote. Ein kurzweiliges Buch von Till Eulenspiegel aus dem Lande Braunschweig. 2. Aufl. Frankfurt a. M. 1981. (insel taschenbuch 336)

Steiner, G.: Ein kurzweilig Lesen von Till Eulenspiegel. Berlin 1955.

II. 1. aus (I) : 33例

ここではまず、形態的に対応する現代語の aus 動詞とそのまま置き換えが可能な uß 動

詞33例について、その代表的な文例の考察から始めることにする。

基礎動詞 ziehen : 8 例

- 1) Und huben an die Jungen und zugen die Schuh uß [...] (S. 17)
Und die Jungen huben an, die Schuhe auszuziehen, [...] (S. 34 : Sichter-
mann)
「そして若者たちは靴を脱ぎ始めた」 : zugen uß = auszuziehen
- 2) Von Stund zoch der Fürst den Rock uß, [...] (S. 116)
Sogleich zog der Fürst den Rock aus, [...] (S. 116 : Si.)
「即座に領主はその上着を脱いだ」 : zoch uß = zog aus
- 3) [...], so gieng er in dise Badstube unnd zoch sich uß [...] (S. 200)
[...], *ging er in diese Badestube²⁾, zog sich aus [...]* (S. 185 : Si.)
「そこで彼 (Ulenspiegel) はこの風呂屋に入り、服を脱いだ」 : zoch uß = zog
aus
- 4) Aber Ulenspiegel het sein Kleider ußgezogen [...] (S. 161)
Denn Eulenspiegel hatte seine Kleider ausgezogen [...] (S. 154 : Si.)
「しかし Ulenspiegel は自分の服 (野良着) を脱いでしまっていた」 :
ußgezogen = ausgezogen
- 5) Wan si ußzohen an die Feind, [...] (S. 67)
Wenn sie gegen die Feinde auszogen, [...] (S. 70 : Si.)
「彼ら (味方の兵) が敵に向かって進み出る時」 : ußzohen = auszogen

上記の 5 例はいずれも基礎動詞に ziehen をとる uß 動詞で、1)、2)、4) は他動詞、5) は自動詞の例、3) は再帰用法だが、いずれも形態的に対応する現代語の ausziehen とそのまま置き換えが可能であった。また、再帰用法については、次のような例も見られた。

[...], deshalb zoch er sich uß dem langen Rock [...] (S. 85)
Deshalb zog er den langen Rock aus, [...] (S. 89 : Si.)
「それ故に彼 (Ulenspiegel) は長いガウンを脱いで」

この原文では基礎動詞の zoch が、再帰代名詞 sich と前置詞句 uß dem langen Rock を伴って「～を脱ぐ」という意味を表しており、これは現代語の 4 格目的語 + ausziehen と同じ意味になる。つまり分離動詞 ausziehen は、その 4 格目的語と前綴り aus(uß) を前置詞句に変換し、基礎動詞 ziehen を再帰動詞として用いることによって前綴りなしでも同

様の意味を表現可能な動詞であることがわかる。

基礎動詞 gehen : 4 例

- 6) Der Schuchmacher gieng uß, [...] (S. 127)

Der Schuhmacher ging aus, [...] (S. 128 : Si.)

「靴屋の親方は出ていった」: gieng uß = ging aus

- 7) Ich sag, als ich von den Leüten gehört hon, die zu mir uß und ein gon. (S. 242)

*Ich sage es so, wie ich es von den Leuten gehört habe, die bei mir aus- und einge-
gehen.* (S. 222 : Si.)

「うち(宿屋)に出入りする人たち(お客)から聞いたことをしゃべっているんだよ」: uß und ein gon = aus- und einge-
gehen

基礎動詞 laufen : 1 例

- 8) Und Ulenspiegel must zu Fuß mit ihn ußlauffen für ein Fußknecht. (S. 67)

[...], und Eulenspiegel mußte mit ihnen zu Fuß auslaufen als Fußknecht. (S. 89 : Steiner)

「そして Ulenspiegel は歩兵として彼ら(他の者たち)と共に歩み出(歩きまわら)なければならなかった」: ußlauffen = auslaufen

6)~8)は、ともに移動を表す基礎動詞 gehen、laufen に uß が付加された例だが、いずれも uß の書記法が aus へと改められたことを除けば現代語と同様の用いられ方がなされていると言える。

基礎動詞 waschen : 4 例

- 9) [...] sie [...] meinten, er käm noch wider unnd würd ihn die Beltz ußweschen. (S. 91)

[...] sie [...] meinten, er käme noch wieder und würde ihnen die Pelze auswaschen. (S. 94 : Si.)

「彼女たち(村の女衆)は、彼(Ulenspiegel)がまた戻ってきて、自分たちの毛皮の汚れを洗い落としてくれるだろうと思っていた」: ußweschen = aus-
waschen

基礎動詞 richten : 2 例

- 10) Da nun Ulenspiegel dise Schalckheit het ußgericht, [...] (S. 247)

Als nun Eulenspiegel diese Schalkheit ausgerichtet hatte, [...] (S. 282 : St.)

「Ulenspiegel がこういったいたずらをしでかしてから」: ußgericht = aus-

³⁾
gerichtet

基礎動詞 bleiben : 2 例

11) Aber Ulenspiegel, der bleib uß und kam nit wider. (S. 123)

Aber Eulenspiegel blieb aus und kam nicht wieder. (S. 125 : Si.)

「しかし Ulenspiegel は 出ていったきり戻らなかった」 : bleib uß = blieb aus

その他、1 例のみ見つかったもの。

ausbrechen : ußbrach = ausbrach 「(汗が) ふき出す」/ ausbrennen : [...] waren
ußgebrant = [...] ausgebrannt waren 「(ロウソクが) 消える」/ ausdienen : [...] hetten
ußgedienet = [...] hatten ausgedient 「(職人の) 年季が明けた」/ aussessen : ußaß =
ausaß 「平らげる」/ ausgießen : giessen [...] uß = gießt [...] aus! 「(ワインを) つぐ」/
ausgraben : [...] ußgraben lassen = [...] ausgraben lassen 「掘り出す」/ aushöhlen :
hülecht [...] uß = höhlt [...] aus 「(リンゴを) くり抜く」/ ausräumen : [...] ußgeräumt hett = [...] ausgeräumt hatte 「外へ運び出す」/ [...] spant er sein Pferd
uß = [...] spannte er sein Pferd aus 「馬を車から外す」/ ausspeien : spüw uß = spie aus
「吐き出す」/ wischet [...] uß = wischte [...] aus 「ぬぐい取る」。また動名詞として用い
られたもので現代語と共通するものもあった。 : [zürnte] mit dem Ußgon = [zögerte]
mit dem Ausgehen 「外出すること (をためらった)」。

以上、書記法の違いによる差異はあるものの、uß 動詞を、形態的に対応する現代語の
aus 動詞と置き換えても意味的な変化が起こらない例について考察した。

II. 2. aus (II) : 18例

ここでは、uß 動詞が形態的には現代語の aus 動詞に置き換えが可能であるがその際、
意味的、統語的に何らかの差異が生じる例について考えてみる。

基礎動詞 baden : 3 例

12) Und also badete er uß, so beste er möchte. (S. 15)

Und also badete er aus, so gut er es vermochte. (S. 34 : Si.)

「こうして彼 (Ulenspiegel) は心ゆくまで たっぷりと水浴びをした」

現代語の ausbaden には主に「後始末 (しりぬぐい) をする」という比喩的、口語的な意
味しか認められないが、原文の badete uß は「存分に水浴びする (zu Ende baden)⁴⁾」と
いう、前綴りと基礎動詞の意味をそれぞれ生かした意味で用いられており、aus(uß) の

「十分に、最後まで」という独自の意味がこの例文においてはまだ残存していることがわかる。現代語訳では原文に準じて、現在ではほとんど使われなくなったこの意味であえて ausbaden という語を用いたものと思われる。

基礎動詞 geben : 5 例

- 13) [er] gab sich uß für ein Artzt, [...] (S. 46) = [er] gab sich als Arzt aus, [...] (S. 61 : Si.)

「彼 (Uenspiegel) は自分を医者であると偽称した」

- 14) [er] gab sich da uß für ein grossen Meister, [...] (S. 83)

Und Eulenspiegel gab sich da aus als großen Gelehrten, [...] (S. 87 : Si.)

「彼 (Uenspiegel) は自分を大学者であると偽称した」

これらの例では、「自らを～と偽称する」という意味の sich für (als) ~ausgeben が用いられているが、13)、14) ともに前綴り uß が文末に配置されず、枠構造を形成していない。

基礎動詞 tun : 2 例

- 15) [...], da thet er sich für ein Wullenweber uß [...] (S. 148)

[...], gab er sich als Wollweber aus. (S. 143 : Si.)

「彼 (Uenspiegel) は自分を毛織工であると偽称した」

ここでは、「偽称する」という意味で使用される現代語の分離動詞 ausgeben に対して、原文ではその基礎動詞が thet (tun) に置き換えられ、tun が geben の意味を担っている。ちなみに現代語の sich austun には「脱衣する；意見を述べる」という意味はあっても「偽称する」という用法はない。

基礎動詞 bleiben : 1 例

- 16) [...], wan Ulenspiegel bleib uß mit den Hünern und mit dem Gelt. (S. 108)

Denn Eulenspiegel blieb mit den Hühnern und mit dem Geld aus. (S. 108 : Si.)

「というのは、Ulenspiegel が鶏とお金を持ったまま帰って来なかったから」

ここで用いられている bleib uß についても、前綴り uß が文末ではなく基礎動詞の直後に位置しており、現代語訳のように aus が文末に位置する枠構造を形成するには至っていない。この時代の文献においては文法が不整備であったため、規範的な配語法に基づいて

文章を書くという意識は薄く、むしろ音韻の関係をより重視して語を配置していたものと思われる。

基礎動詞 *treiben* : 1 例

17) [...], das jederman sein Schwein uß lies treiben, [...] (S. 144)

[...], *damit jedermann seine Schweine austreiben lasse*, [...] (S. 139 : Si.)

「誰もが自分のところで飼っている豚を追い立てるように」

この例文では「放牧のために豚を牧草地へ連れ出す、追い立てる」という意味で *uß* ~*treiben* が用いられており、現代語の *austreiben* にそのまま置換されているが、ここでは音韻の関係からか助動詞 *lassen* が前綴り *uß* と基礎動詞 *treiben* との間に挿入されているため、これによってこの語の一語としての結び付きが弱められているように思われる。

基礎動詞 *schreiben* : 1 例

18) Consilium und ein Versammlung der Schneider beschrib Ulenspiegel uß in die windische Stät [...] (S. 145)

Eine Zusammenkunft und eine Versammlung der Schneider schrieb Eulenspiegel aus in den wendischen Städten [...] (S. 140 : Si.)

「Ulenspiegel はヴェント諸都市に、仕立屋の会合、会議を開催するというお触れを出した」

「公示する、広告する」という意味の現代語 *ausschreiben* に対して原文では *beschrib* ~*uß* が用いられており、その基礎動詞には非分離の前綴り *be-* が付加されている。現代語訳ではこの *be-* を除去した *schreiben* を基礎動詞に用いて同じ意味内容を表現していることから、本稿で取り上げた文献では *schreiben* と *beschreiben* との間に意味的には大きな差異がなかったものと思われ、非分離前綴り *be-* 独自の作用は認められなかった。また、ここでも基礎動詞に *be-* を付加することによって一語としての結び付きが弱められているため、前綴り *uß* が語の一部ではなく、「公に」という意味を表す独立した副詞として意識されていた可能性も考えられる。

基礎動詞 *kehren* : 1 例

19) So ist mein Treck und Euwer Treck zu einem ußkeret. (S. 235)

So *wird mein Dreck und Euer Dreck zugleich ausgekehrt*. (S. 217 : Si.)

「そうすればおれの汚物もおまえさんのものいっぺんに掃除されるってわけだ」

ここではまず原文において、auskehren（「掃き出す、掃除する」）の過去分詞に ge-の脱落が見られる。これは前綴り uß 自体にすでに完了的意味が含まれていることから ge-の省略が起こったものと思われるが、さらにこの例文では、原文が状態受動であるのに対し現代語訳では動作受動が用いられている。このような例は他にも見られるが、この文献においては⁵⁾動作的表現より状态的表現の方がより好まれる傾向にあったものと思われる。

III. 前綴りなし：13例

ここでは、原文で用いられている前綴り uß を除去し、基礎動詞のみで原文の uß 動詞と同様の意味を現代語において表現している文例を見ることにする。

基礎動詞 hängen：1 例

- 20) [...], wie Ulenspiegel ein Fraw zu Gast lud, der der Rotz zu der Nasen ußhieng. (S. 217)

[...], wie Eulenspiegel von einer Frau zu Gast geladen wurde, der der Rotz aus der Nase hing. (S. 225 : St.)

「鼻から鼻汁をたらした女が Ulenspiegel を（食事に）招待した話」

原文の zu der Nasen ußhieng に対応する部分が現代語訳では aus der Nase hing となり、原文における分離前綴り uß が現代語においては前置詞として機能しており、aus der Nase aushängen という表現にはなっていない。またこの場合、原文における前置詞句 zu der Nase の zu は方向ではなく場所を表す前置詞であると考えられる。

基礎動詞 gehen：2 例

- 21) Da gieng Ulenspiegel zum Hauß uß [...] (S. 151)

Da ging Eulenspiegel aus dem Hause [...] (S. 183 : St.)

「その時 Ulenspiegel は家から出ていった」

原文の gieng~zum Haus uß は現代語訳では ging~aus dem Hause となり、ここでも原文における分離前綴り uß が現代語では前置詞として機能しており、aus dem Hause ausgehen とはならない。そしてまた原文中の前置詞句 zum Hause の zu は「家で」という場所を表す前置詞と解釈でき、これは「在宅」を意味する現代語の表現 zu Hause へとつながるものであると思われる。

基礎動詞 treiben : 1 例

22) Groß und klein, wie der Schweinhirt zu dem Thor ußtreibt. (S. 126)

Groß und klein, wie es der Schweinehirt aus dem Tore treibt. (S. 127 : Si.)

「豚飼いが家畜を市門から追い立てるように、大きいのがやら小さいのがやらだ」

この文例でも上記20)、21)と同様に、原文の前置詞句 zu dem Thor ußtreibt が現代語訳では aus dem Tore treibt と訳され、原文における分離前綴り uß が現代語では前置詞として用いられている。また原文 zu dem Thor の zu はここでも「市門へ」という方向の意味ではなく、「市門で」という場所を表す前置詞であると考えられる。このように、本稿で取り上げた文献における動詞前綴り uß については、対応する現代語において前置詞へと品詞転換される傾向があることが見て取れる。

基礎動詞 hören : 1 例

23) [...] und ein anderer Priester hub die Hohe Meß an. Die hort Ulenspiegel uß. (S. 110)

[...], und ein anderer Priester begann mit dem Hochamt, das Eulenspiegel zu Ende hörte. (S. 109 : Si.)

「そして別の司祭が荘厳ミサをはじめた。Ulenspiegel はこれを最後まで聞いた」

原文では前綴り uß によって「十分に、最後まで」という意味が表現されており、この uß に対して現代語訳では zu Ende 「最後まで」という副詞句が充てられているが、現代語には前綴り aus が hören と結びついて aushören となる用法はほとんどなく、また古風な表現として残っているものでもそれは „aushorchen⁷⁾ 「それとなく聞き出す」“ といった意味内容を表すものであって、分離前綴り aus によって「最後まで」という意味を表現する用法は現代語においてはまれである。

基礎動詞 leiden : 1 例

24) [...], und [du] leidest die Winterzeit über uß, [...] (S. 153)

[...], und [du] mußt den ganzen Winter über leiden. (S. 183 : St.)

「そして耐え抜いて冬を越すのだ」

ここでも原文では uß が leiden と結びついて「最後まで耐え抜く」という意味を表し、例文23)と同様に uß によって「最後まで」という副詞的意味が基礎動詞 leiden に付加されている。これに対して「最後まで耐え抜く」の意味の ausleiden という語は現代語では雅

語として特定の言い回しにのみ用いられ、⁸⁾そのため現代語訳では den ganzen Tag über のように「全体」を表す ganz という別の語によって原文における uß の「最後まで」という意味が実現されているものと考えられる。

基礎動詞 wahren : 1 例

- 25) Daz wärt den Abent uß, das der Wirt so dise Kouflüt veracht, biß daz sie zu Beht giengen. (S. 226)

Es währte den ganzen Abend, daß der Wirt die Kaufleute verächtlich behandelte, bis sie zu Bett gingen. (S. 209 : Si.)

「宿の亭主はその商人たちが床につくまで夜通し中彼らをばかにし続けた」

これは、「終了」を表す完了的意味の uß が、wahren 「続く」という継続的意味の動詞と結びついた例であるが、投宿した商人たちを宿の主人がばかにするという行為が、biß (bis) 以下にあるように商人たちが床につくまで続くという時間的制限があり、uß はそれまでの一晩中という期間を表現している。この uß 動詞に対応する *auswähren という語は現代語には存在しないため、ここでも uß が現代語訳ではその期間全体を表す ganz という別の語によって置き換えられている。

基礎動詞 blasen : 1 例

- 26) Da nun der Schweinhirt ußbließ, [...] (S. 144)

Als nun der Schweinhirt blies, [...] (S. 139 : Si.)

「さて豚飼いが（放牧の合図の）笛を吹き鳴らしたとき」

原文の ußbließ は「（ラッパを吹いて）知らせる」の意味で用いられていると考えられ、この uß には「公に」の意味が認められるが、現代語においてこの意味はすで衰退してしまっている。⁹⁾そのため現代語訳では基礎動詞 blasen のみが使用され、uß にかわる別の語は立てられていない。

基礎動詞 geben : 1 例

- 27) Ulenspiegel gab den alten Groschen uß [...] (S. 132)

Ulenspiegel gab ihm den alten Groschen, [...] (S. 194 : Si.)

「Ulenspiegel はその旧貨グロッシェンを支払って」

この例文で、原文の gab~uß は「支出する」という意味で用いられているが、現代語訳

には uß に対応する aus が省かれている。その代わりに現代語訳では geben の 3 格目的語 ihm が添加されており、このように geben する方向を表示することによって aus の省略が可能となったものと思われる。

IV. 1. hinaus : 21例

ここでは、原文における uß の対応表現として hinaus が現代語訳で用いられている例を見てみる。aus の「内から外へ」という方向性が hin によって強調されている文例が以下のように見られた。

基礎動詞 gehen : 5 例

28) [...] und [Ulenspiegel] gieng zu der Thür uß [...] (S. 201)

Und er ging zur Tür hinaus [...] (S. 187 : Si.)

「そして彼 (Ulenspiegel) は扉から外へ出て」

基礎動詞 laufen : 3 例

29) [...] und [Ulenspiegel] wolt zur Thüren ußlauffen. (S. 156)

[...] und [Eulenspiegel] wollte zur Tür hinauslaufen. (S. 149 : Si.)

「そして (Ulenspiegel は) 戸口から逃げ出そうとした」

基礎動詞 führen : 4 例

30) Dem (=Ulenspiegel) sei ein Pferd gestorben, das solte er ¹⁰⁾außführen, [...] (S. 192)

Dem (=Eulenspiegel) sei ein Pferd gestorben, das solle er hinausführen; [...] (S. 225 : St.)

「その人 (Ulenspiegel) の馬が死に、それ (馬の死骸) を外へ運び出してもらいたい」

基礎動詞 reiten : 2 例

31) [...] und [Eulenspiegel] saß uff sein Pferd und [reit] zu der Dür uß. (S. 235)

Und er setzte sich auf sein Pferd und ritt zum Tor hinaus. (S. 217 : Si.)

「そして (Ulenspiegel は) 馬にまたがり戸口から外へ出ていった」

32) [...] und [Eulenspiegel] sattelt sein Pferd und reit zu der Thüren uß [...] (S. 238)

Und er sattelte sein Pferd, ritt zum Tor hinaus [...] (S. 219 : Si.)

「そして (Ulenspiegel は) 自分の馬に鞍を置き、戸口から馬に乗って出ていきながら」

基礎動詞 lassen : 2 例

- 33) Also ließ man sie uß. (S.196) = (*Als sie müde und abgespannt wurde*), ließ man sie hinaus. (S. 181 : Si.)

「そこで彼女は外へ連れ出された」

以上のように、「外へ」という uß の方向性が現代語では hinaus という形で強調されているのだが、これらのうち例文28)の gieng zu der Thür uß、例文29)の zur Thüren ußlaufen、例文31)の [reit] zu der Dür uß、例文32)の reit zu der Thüren uß などに見られる zu は、先にも述べたように扉あるいは門という場所そのものを表し、そこから外へという方向性はすべて uß によって表現されているものと思われる。なお例文31)の原文 „[Eulenspiegel] saß uff sein Pferd“ とその現代語訳 „er setzte sich auf sein Pferd“ において、原文中の saß は自動詞であるが後続の uff 前置詞格目的語は 4 格をとっていると見られ、このため現代語訳では他動詞 setzen の再帰用法が対応表現として用いられている。このように動作を表現する際、saß という自動詞によって状態的表現がここではとられていることがわかる。また例文33)原文中の ließ~uß に対しては現代語の hinauslassen が充てられているが、この hinauslassen は南部・オーストリア方言の auslassen : „freilassen, loslassen 「解放する」“ を hin によって強調的に用いた表現であると考えられる。

その他一例だけ見つかったもの。

hinausjagen : zu der Thür ußjagen = zur Tür hinausjagen 「戸口から追い出す」/ hinaussehen : sahe [...] zu dem Fenster uß = sah [...] zum Fenster hinaus 「窓から外を見やる」/ hinaus-, (heraus-)stoßen : stieß [...] uß = [...] hinausstieß 「突き破る」/ hinaussteigen : war [...] ußgestigen = [...] hinausgestiegen war 「[ぶち抜いた屋根から] 外へ出る」/ hinausrecken : reckt [...] zum Fenster uß = reckte [...] zum Fenster hinaus 「窓からさし出す」

IV. 2. heraus : 5 例

ここでは、hinaus とは逆の方向を示す heraus 「中から (こちらの) 外へ」が原文の uß に対応する現代語として基礎動詞に添加された例について考えてみる。

基礎動詞 kommen : 3 例

- 34) [...], wan ihm was leid, das es möcht ußkumen. (S. 223)

[...], denn er befürchtete, daß es herauskäme. (S. 206 : Si.)

「というのは、彼 (Ulenspiegel) は秘密が明るみに出るのを恐れたからだ」

例文34)の ußkumen によって表現されている「秘密が漏れる」という意味は現代語の auskommen にもあるが、現代語訳ではさらに her が付加され aus がもつ「公に、公然と」の意味に加えて「公の場に出てくる」という方向性の強調が見られる。このように aus に her を付加して現代語訳された例には次のようなものもある。

heraushelfen : Da halfen [...] uß = Da halfen [...] heraus 「助け出す」/

herausbeschwören : ußbeschweren 「悪霊を追い払う」

V. 1. hervor : 2 例

上で述べた heraus と類似して「内側から外へ、手前へ」という意味をもつ hervor が uß に対応して用いられた例も以下のように見られた。

基礎動詞 hängen : 2 例

35) [...] den Rock so ver abgeschnitten, als er under dem Mantel ußhieng, [...] (S. 258)

[...] den Rock so weit abgeschnitten, wie er unter dem Mantel hervorhing. (S. 239 : Si.)

「上着がコートの下から垂れ下がっているところで切ってしまう」

この例文では、「コートの下」という場所において上着が外へ垂れ下がっているという状況が表現されているが、「外へ」を表す uß に対して現代語では「内側から外へ」を意味する hervor が用いられており、ここでも uß の方向性がより強く表現されていると言える。

V. 2. vor : 1 例

またさらに次の文は、her をも取り除いた vor だけの形で uß との置き換えを行っている例である。

基礎動詞 geben : 1 例

36) Die 14. Historie sagt, wie Ulenspiegel ußgab, das er zu Megdberg von der Lauben fliegen wolt, [...] (S. 42)

Wie Eulenspiegel vorgab, daß er zu Magdeburg von der Laube fliegen wollte, [...] (S. 65 : St.)

「Ulenspiegel が（市役所の）張り出し出窓から飛んでやると言いふらした話」

原文の ußgab 「公言する」においては前綴り uß に「公に」という意味が認められるが、この uß が vor に置き換えられた現代語訳の vorgab 「偽って申し立てる」では、発言内容の真偽に焦点が当てられており、ここには意味的なずれが生じているように思われる。¹¹⁾

VI. auf : 3 例

基礎動詞 essen : 2 例

37) [...] und [Ulenspiegel] aß das Weißmuß alles uß [...] (S. 220)

Und er aß das ganze Weißmus auf, [...] (S. 204 : Si.)

「そして (Ulenspiegel は) ミルクがゆをすべて平らげた」

この例文では aß~uß が現代語の aufessen 「平らげる」で書き換えられており、uß → auf という前綴りの交換が見られるが、この aß~uß に形態的に対応する ausessen 「食べ尽くす」という語は現代語にも存在し、意味的にも aufessen とほぼ同じである。また文法的にも ausessen、aufessen とともに容器 (Teller、Schüssel など) と食べ物そのもののいずれの語をも目的語として取ることができるため、現代語訳にも ausessen を用いることが可能なはずだが、現代語では前綴りを auf とする方がより自然に感じられるという傾向があるのかも知れない。¹²⁾

38) Das treib er so lang, bitz sie die Murcken, das Weckbrot, gar uß müsten essen. (S. 24)

Das trieb er so lange, bis die Kinder alle Brocken des Weckbrotes aufgegessen hatten. (S. 40 : Si.)

「彼ら（子供たち）が豚肉汁をかけた白パンを残さず食べきるまで彼はそれ（鞭で打つこと）を続けた」

ここでは原文における語順に現代語にはない特徴が見られる。前綴り uß と基礎動詞 essen との間に助動詞 müsten が挿入され、ußessen müsten とはならず例文に見られるように助動詞構文において前綴りが基礎動詞から分離した状態で配置されている。この現象は助動詞 müsten だけにとどまらず、例文17)の uß lies treiben のように lassen にも見ら

れることであり、また前綴り ab に関しても、„[...] , vor den man sich muß neigen oder die Kugel ab muß ziehen (S. 108) (= [...], vor denen man sich neigen oder die Kappe ziehen muß. (S. 108 : Si.))“ のように abziehen が muß によって分割された例も見られる。これらの例における語の配置については、文法規則に優先して音韻的影響の方がより強く作用したためと考えられる。

基礎動詞 brechen : 1 例

39) [...] und [er] brach daz Dach oben uß [...] (S. 119)

[...], brach das Dach oben auf [...] (S. 121 : Si.)

「そして彼 (Ulenspiegel) は上の屋根をぶち破った」

この例文では、uß の「外へ」という意味と auf の「開く」という意味が brechen 「壊す」という動作を介して、Dach 「屋根」という対象物に対して結果的には同じ作用を及ぼす表現が示されており、基礎動詞 brechen については前綴り uß と auf の置換が可能であることがわかる。

VII. durch : 3 例

基礎動詞 arbeiten : 1 例

40) [...], er mus die Wochen ußarbeiten. (S. 149)

[...] ; bei mir muß er die Woche durcharbeiten. (S. 143 : Si.)

「うちでは職人は一週間休みなしで働かなければならんぞ」

原文における ußarbeiten の uß は完了的意味作用を基礎動詞に及ぼしていると考えられ、現代語の ausarbeiten も「仕上げる」といった意味を表している。それに対して現代語訳の durch は継続的で「行為の連続」を表しており、この文例では時を示す die Woche を伴って「一週間働き続ける」という継続的意味となっている。そうすると原文の uß にも durch と同様に継続的意味の可能性が考えられるが、しかし原文の uß は一週間働き続けてその後¹³⁾に働き終わる時点に焦点が当てられた完了的意味を表現しているとも解釈され、uß に継続性は想定しにくい。従ってここでは原文と現代語訳とで arbeiten という動作の様態の把握に違いがあるように思われる。またこれと同様の例として、次のような文例も見られた。この場合、wercken は arbeiten とほぼ同じ意味である。

(基礎動詞 werken : 1 例)

- 41) [...], ich solt die gantz Woch ußwercken. (S. 149)

[...], *ich solle die ganze Woche durcharbeiten*. (S. 143 : Si.)

「一週間中休まず働け (とおっしゃった)」

基礎動詞 bringen : 1 例

- 42) [...], daz er sich mit seiner Büberei nit wol ußbringen mocht. (S. 77)

[...], *daß er sich mit seinen Streichen nicht mehr länger durchbringen konnte*, [...] (S. 100 : St.)

「いたずらでは彼 (Ulenspiegel) はもはや暮らして行けない」

例文42)における ußbringen は *sich* を伴って「暮らしを立てる (*sich ernähren*)」という意味で用いられており、こういった意味は現代語にも、また中高ドイツ語、初期新高ドイツ語、あるいは中世低地ドイツ語 (mnd. *ûtbringen*)¹⁴⁾ にも見られない用法であるが、この場合の uß は現代語訳の *durch* と同様に「切り抜ける」という完了的な意味を表しており、ここに uß と *durch* の置換を可能とする類似、共通点があると言える。

その他、基礎動詞 *machen* については *fertig* と、*richten* については *an* と置き換えて現代語訳されている例が一例ずつ見られた。

fertigmachen : *mach* den Wolff recht uß = *mach* den Wolf *fertig* 「狼 (の皮でできた上着) を仕上げる」/ *anrichten* : als er die Schalckheit [...] het ußgericht, [...] = als er [...] die Schalckheit angerichtet hatte, [...] 「いたずらをしでかす」

VIII. おわりに

以上、初期新高ドイツ語で書かれた原文とその現代語訳において、同じ基礎動詞に対して前綴り uß がどのように変化して用いられているかを文献中の101例について考察し、分類を試みたわけだが、残り12例の uß 動詞に関しては、現代語訳において基礎動詞そのものが原文とは異なった語に置き換えられているため、前綴りのみの変化、働きを見るには至らなかった。

注

- 1) ein ußgeleßner Schalck, ein ußerlesen Schalck のような分詞形容詞は考察から除外した。また、uß 動詞の表記は Lindow のテキストでは常に一語書きであるが、Kürschner ではほとんどが分かち書きされている。(Kürschner, Deutsche National-Litteratur Bd. 25. Volksbücher des 16. Jahrhunderts. Eulenspiegel. Faust. Schildbürger. Hrsg. von Felix Bobertag. Stuttgart 1873.)
- 2) 北部方言。標準語では *Badezimmer*。
- 3) Als Eulenspiegel diese Schalckheit vollbracht hatte, [...] (S. 195 : Si.)

- 4) Paul, H.: Deutsches Wörterbuch. 10. Aufl. Tübingen 2002. S. 115.
„fertig baden“: Grimm, J. / Grimm, W.: Deutsches Wörterbuch. 33 Bde. Leipzig 1854-1971. (dtv 5945) Bd. 1. S. 827.
- 5) 拙稿: 「初期新高ドイツ語民衆本 „Dil Ulenspiegel (1515)“ の語法について」、大手前大学社会文化学部論集第1号(2001)、S. 63 f. 参照。
- 6) Duden: Das große Wörterbuch der deutschen Sprache. 10 Bde. 3. Aufl. Mannheim 1999.
R. Klappenbach/ W. Steinitz: Wörterbuch der deutschen Gegenwartssprache. 6 Bde. Berlin 1964-77. これらいずれの辞書にも „aushören“ は見出し語として登録されていない。
- 7) Brockhaus-Wahrig: Deutsches Wörterbuch. 6 Bde. Wiesbaden/ Stuttgart 1980-84. S. 425.
- 8) Klappenbach: „ausgelitten haben 「耐え抜く (=死ぬ)」“, Brockhaus-Wahrig: „(selten) zu Ende leiden 「最後まで耐える」“。
- 9) 現代語の ausblasen は「吹き消す、吹き出す; 吹き止む」といった意味で主に用いられる。
- 10) uß より現代語に近い auß という形で現れた例はこの1例だけで、現代語と同形の aus は本稿で取り上げた文献には見られなかった。
- 11) Sichtermann (S.58) では原文の ußgab に対して „verkündete 「公表する、明言する」“が用いられている。
- 12) Brockhaus-Wahrig, Duden では ausessen: „ganz aufessen“ と説明されており、ausessen は aufessen を強調した記述となっているため、両者の間には意味的な強さの程度に差があるものと思われる。
- 13) 原文では „Die ganze Woche ohne Unterbrechung“ (S. 149) という注釈が付されている。
- 14) Lübben, A.: Mittelniederdeutsches Handwörterbuch. Leipzig 1888: Nachdruck, Darmstadt 1995. S. 456.

上記以外の参考文献

- Baufeld, C.: Kleines frühneuhochdeutsches Wörterbuch. Tübingen 1996.
- Ebert/ Reichmann/ Solms/ Wegera: Frühneuhochdeutsche Grammatik. Tübingen 1993.
- Götze, A.: Frühneuhochdeutsches Glossar. 7. Aufl. Berlin 1967.
- Hundsnurscher, F.: Das System der Partikelverben mit AUS. In: Tendenzen verbaler Wortbildung in der deutschen Gegenwartssprache. hrsg. von Ludwig M. Eichinger. Hamburg 1982. S. 1-32.
- Lexer, M.: Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. 38. Aufl. Stuttgart 1992.
- 阿部謹也 (訳): 「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」 岩波書店 1990.
- 川島淳夫 他編: 「ドイツ言語学事典」 紀伊国屋書店 1994.
- 工藤康弘・藤代幸一: 「初期新高ドイツ語」 大学書林 1992.
- 藤代幸一 (訳): 「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」 法政大学出版局 1979.